

メキシコおよび周辺国在住日本語教師のスライド使用実態調査

田中千恵^{*1}

^{*1} 名古屋大学大学院

Survey on slide usage of Japanese teachers living in Mexico and neighboring countries

TANAKA Chie^{*1}

^{*1} Graduate School of Nagoya University

メキシコやその周辺の中米国在住の日本語教師を対象に、教師自身が日本語の授業においてスライドをどの程度用いているか、用いている場合はどのような表示の仕方を使用しているかを調べるため、メキシコ日本語教師会のシンポジウムにて質問紙によるアンケート調査を行った。調査の結果、スライドを使用する教師はやや多いこと、学習項目によってスライドの表示の仕方が異なることが明らかになった。

キーワード: スライド, 日本語教育, メキシコ, 順次表示, 全体表示

1. はじめに

近年、外国人日本語学習者に対しても既存の絵教材や文字カードのみならず、スライドを用いて日本語の授業を行う機関や教師が増加している。

スライドの提示について、本間(2007)はスライド上の情報を順番に提示することに着目し、大学の教養科目の講義において聾学校出身者と普通高校出身者を対象にスライドの資料提示のし方を分けアンケート調査を行った。また、岡崎ほか(2016)数学の図形問題や物理の解説の授業の分析から、「逐次的な構成的理解を助ける板書型の動的な情報提示は、課題が難しい場合には有効な提示手法であり、一方、最終結果をまとめて示す静的提示は、情報の解釈の自由度を与えるもので、課題が難しくない場合には、有効な手法となり得る」(岡崎ほか2016:13)としている。本稿では岡崎ほか(2016)を参考に、スライドの表示方法を以下の表1の2種類とする。

- ・順次表示: 一枚のスライド上の要素(絵など)を、アニメーション機能を用いて徐々に提示
- ・全体表示: 一枚のスライド上の要素を一度にすべて提示

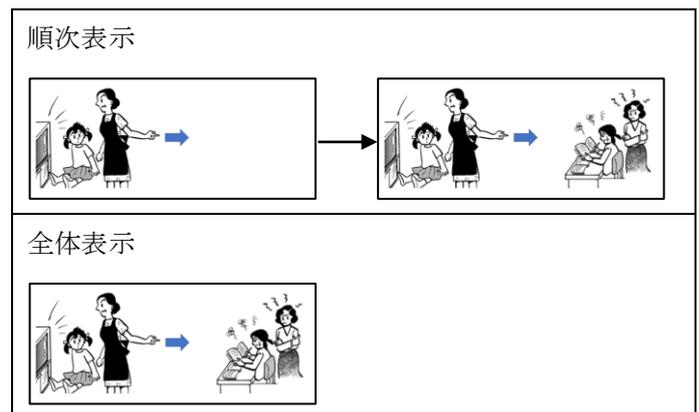


図1 スライドの見せ方

2. 研究の目的

まず、メキシコの日本語教師が自身の日本語の授業においてどの程度スライドを使用しているかの状況を把握する。また、スライドを使用する際に教師はどのように順次および全体表示の使い分けをしているかをいくつかの学習項目から探り、メキシコにおける日本語の授業でのスライド使用実態を明らかにすることを目的とする。

3. 研究の方法

メキシコ全国およびその周辺の中米諸国に在住する日本語教師が集まるシンポジウムにて、質問紙調査

を行った。

日時：2018年3月

対象：メキシコおよびその周辺の中米諸国在住の日本語教師（母語話者／非母語話者）計79名

質問項目：

①-1. 日本語の授業においてどの程度スライドを使用しているか（5段階評価「1いつも使う、2よく使う、3ときどき使う、4あまり使わない、5まったく使わない」）

①-2. どのような内容・場面でスライドを使用しているか（自由記述）

②-1. 「んです」、敬語、自動詞／他動詞（以下、自他）、受身、使役の各項目において、順次表示／全体表示のどちらが適していると思うか（「A 順次表示、B 全体表示、X どちらともいえない」の三つから選択）

②-2. 選んだ理由（自由記述）

質問項目②における上記5つの学習項目は、市川（2014）を参考に、日本語学習者にとって難しいと思われる項目のうち、メキシコのある大学の日本語クラスの各レベルにおける既習文法を一つずつ選択した。

4. 結果および考察

4.1 スライド自体の使用について

質問①-1の5段階評価の結果は以下のとおりである。なお、質問紙では1をいつも使う、5をまったく使わない、として調査を実施したが、数値が高いほうが使用頻度が高いことが判別しやすいよう、5をいつも使う、1をまったく使わない、にして分析した。

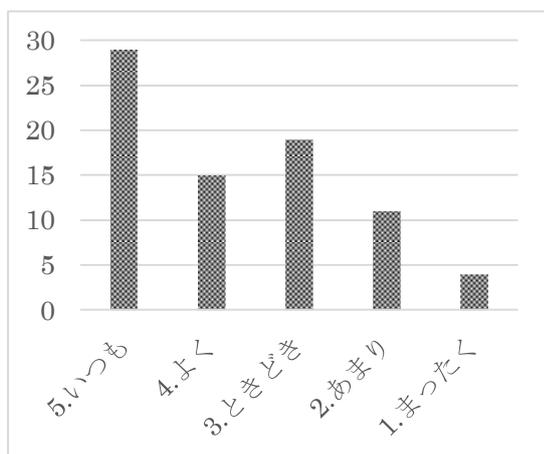


図2 5段階評価結果

「いつも」使っているのが29名、「よく」使うのが15名、「ときどき」使うのが19名、「あまり」使わないのが11名、「まったく」使わないのが4名であった。なお、「まったく使わない」を選択した4名のうち3名は日本語教授歴3年未満である（1名は教授歴不明）。平均値は3.7となっており、スライドを使用するメキシコ在住教師はやや多いことが窺える。これは、メキシコにおいては生教材やレアリアの確保、保管が難しいことと、インターネットが普及した昨今では情報の伝達、更新が早く、一から作り直すよりはスライドで画像を変えたり加減したりするほうが容易であるということが理由として考えられる。

質問①-2の自由記述においては、質問①-1でスライドの使用頻度を評価した理由が述べられていたものもみられた。スライドを「いつも」「よく」使っている教師からは「クラスを魅力的なものにするため」「学習者に容易に理解させるため」「場面をたくさん出すことでわかりやすくするため」「思うようなイメージを出すため」「板書時間の節約」「視覚的にダイナミックにするため」「指示しやすいから」「楽しく覚えられるから」「わかりやすく学習者の注意をひきやすいから」といった回答がみられた。反対に「あまり」「まったく」使わない教師からは「設備がない」という回答が複数あり、他に「学習者の顔を見て授業がしたいから」「作成に時間がかかる」「すべての授業で必要なものではないから」といった回答がみられた。この記述から、

質問①-2の自由記述から抽出した実際のスライドの使用場面は、以下の表1である。これは、自由記述から内容と場面に分け、それぞれ6つずつカテゴリーを設定したものである。

表1 スライド使用場面

	内容						場面					
	文法	語彙	会話	漢字	文化	ゲーム	説明	導入	練習	例示	応用	復習
1	19	5	11	4	2	0	15	14	9	9	5	0
2	10	6	3	0	1	0	8	5	4	5	1	0
3	11	8	3	3	2	1	6	8	2	2	3	2
4	1	0	0	0	0	0	1	2	1	0	0	0
5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	41	19	17	7	5	1	30	29	16	16	9	2

スライドの使用場面として多くみられたのは、内容では文法が際立ち、次いで語彙、会話の順であった。場面では説明、導入が主で、次いで練習および例示が多くみられた。このことから、スライドを用いた授業においても、初級では文法や説明、導入が重要視されていることがいえる。

4.2 各学習項目におけるスライドの表示について

次に、質問項目②-1の各学習項目における結果をグラフに示す。

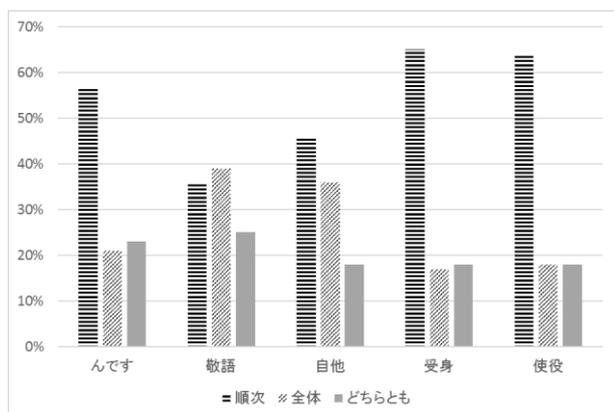


図 3 学習項目別表示結果

図中の「順次」は順次表示、「全体」は全体表示、「どちらとも」はどちらともいえない、を示している。

学習項目別にみると、「んです」は順次表示が 56%、全体表示が 21%となった。敬語は順次表示が 36%、全体表示が 39%である。自他は順次表示が 46%、全体表示が 36%、受身は順次表示が 65%、全体表示が 17%、使役は順次表示が 64%、全体表示が 18%という結果になった。

差が出たのが「んです」、受身、使役で、順次表示のほうが多く選ばれた。対して、自他はそこまで顕著な差はみられず、敬語に至っては僅かとはいえ全体表示のほうが多く選ばれた。

質問②-2の自由記述から得られた回答を内容に応じて分類したものが以下の表2になる。ここでは回答者一人1項目につき1つのみ回答があり、理由の後ろに付加した数字は回答数、付加されていないのは一人のみの回答であったことを意味する。無回答および項目別に分類できない回答は除外した。

表 2 項目別表示選択理由

	順次表示	全体表示
んです	場面提示 (4人) 説明 (3人) 会話の流れ (3人) 考える時間の付与 (3人) 文字量	シンプルな構造 (2人) シチュエーション テーマが簡単

	練習できる 状況を段階的に提示 細かいやりとり 状況のリアリティ テンポよく練習 経過の理解が必要 状況や背景が重要 状況説明が難しい	
敬語	細かいやりとり 形の比較 状況を段階的に提示	状態が一気に見せられる TとSのイメージのみで十分 動きがなくてもわかる 流れは重要ではない 背景の詳しい説明は必要ない 場面を予め知る必要がある 考える時間の付与
自他	動きがわかる (2人) 他の介入の説明が必要 他の動作に影響されにくい 状況を想像させる 状況の変化を見せる 学習者にとって難しい項目	比較 (5人) 一度にコンセプトを理解 考える時間の付与
受身	場面提示 (5人) 状況を段階的に提示 (3人) 動きが見せられる (2人) 比較 少しずつ提示 細かいやりとり 変化 アニメーション	考える時間の付与 場面を予め知る必要がある
使役	場面提示 (5人)	場面ありき

役	状況を段階的に提示 (2人) 考える時間の付与 細かいやりとり 変化 情報量が調整できる	シチュエーション 場面を予め知る必要 がある 考える時間の付与
---	-------------------------------------------------------------	------------------------------------------

表 2 から、順次表示にしる全体表示にしる「場面」を重要視している可能性が示されている。その場面を、順次および全体表示のどちらで示すかについては、順次表示では「段階的」「動き」「変化」とあるように、その一場面の中での状況の変化と、変化が起こった後もそのスライドに時間経過前の一部分が示されていることが学習者の理解を助ける役割をもつものに該当するのではないかと考えられる。全体表示では場面を一度に見せたほうが効果が表れるであろうという期待が載せられた。また、ごく一部ではあるが順次表示では「難しいから」、逆に全体表示では「簡単だから」といった理由もあげられている。これは岡崎ほか (2016) の結果とも共通している。どちらにもみられるのが「(学習者の) 考える時間の付与」であるが、これは順次表示の場合は段階的に考えていくこと、全体表示では一度で得た情報をもとに考えること、といった違いがあるのではないかと考えられる。

田中 (2016) では学習者を対象に、同じく順次および全体表示に関するアンケート調査を行った。その自由記述から、順次表示については「前後の関係、時間的流れがわかりやすい」「インターアクションが多く活発」、全体表示については「状況把握が容易」「比較が容易」との記述がみられた。教師、学習者ともに、順次表示では時間的経過、全体表示では比較の容易さについて言及があり、各々の共通した特徴であるといえる。

市川 (2005) によると、「んです」は説明が必要な状況がある場合に用いることに留意させる、「敬語」は誰の動作か理解したうえで形を覚える、「自他」は目的語の有無の理解し語彙として覚える、「受身」は常に人間関係を確認させながら練習する、「使役」は常に「誰が誰に」といった人間関係を確認させながら練習する、といったことが学習者に教える際のポイントだとしている。「んです」「受身」「使役」で順次表示のほうが多

かったのは、「説明が必要」「関係を確認させながら」といったポイントが、全体表示で一度に見せるよりは順次表示で少しずつ考えさせたり発言させたりしながら進めたほうが学習者にとってわかりやすいからなのではないかと考えられる。また、「自他」に差がみられなかったのは、「語彙として覚える」やり方の差によるものではないかと考えられる。たとえば、現象の変化や動きを見せる場合は順次表示、語彙リストで覚えさせようとすると全体表示に近くなるといったことが考えられる。「敬語」で若干全体表示のほうが多かったのは、「誰の動作か理解」するのに、スライド上で動きを見せる必要はあまりなく、また一度に情報を提示しても然程難しくないのでないかと考えられる。

5. 今後の課題

以上、メキシコおよびその周辺国に在住の日本語教師が、日本語の授業においてスライドをどの程度、どの表示の仕方で用いているかをみてきた。今後は、他の学習項目でのスライド使用の実態や、学習者側がスライド表示の違いによってどのような受け取り方をしているのか等について調査を行い、スライドの効果的な表示とはどのようなものであるのかを明らかにする必要があると考えている。

参考文献

- (1) 本間巖: “パワーポイントによる資料提示方法と効果に関する研究”, 筑波技術大学テクノレポート, 第 14 号, pp.195-199 (2007)
- (2) 岡崎泰久、西村康平、古川厚: “手書きとアニメーションによる情報提示の比較評価実験”, 電子情報通信学会技術研究報告, 第 116 巻, 第 228 号, pp.13-18 (2016)
- (3) 市川保子: “初級日本語文法と教え方のポイント”, スリーエーネットワーク (2005)
- (4) ———: “外国人学習者は日本語文法の何が知りたいか: 日本事情クラスを通して”, 日本語と日本語教育, 第 42 巻, pp.83-112 (2014)
- (5) 田中千恵: “スライドの見せ方が学習者の理解や思考に与える影響”, 日本語教育方法研究会誌, 第 23 巻, 第 1 号, pp. 58-59 (2016)